

Forex

株式会社 ジャパン
エコノミックパルス
〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町
2-33-5
Tel 03-5962-3910
Fax 03-5962-3913
www.j-pulse.co.jp
info@j-pulse.info

Market Insight

2023年11月20日（月）

反動的なドル安と円高、持続と一服にらむ

円ショート整理、FRB政策、米指標、原油など焦点

今週の為替相場は反動的なドル安と円高について、持続余地と一服をにらんだ展開が想定される。週間予想はドル/円が147.80-150.30円、ユーロ/円は161.30-164.20円。前週は米国の物価などの指標下振れやFRB利上げ休止観測などで、ドル安が後押しされた。同時に米国など世界経済の先行き懸念や、米感謝祭休場などを前にしたポジション調整等により、全般的な円買い戻しが優勢になっている。今週は大きく積み上がっている円ショート（売り持ち）ポジションの整理動向やFRB政策、米指標、原油などが焦点になる。

ドル/円の急落2週目、2-3週で一巡か否か注目

今週の為替相場場で注目されるのは、11月以降のクロス円（円の対非ドル通貨）やドル/円での円安・外貨高進展を受けて、大きく積み上がってきた投機的な円ショート（売り持ち）ポジションの動向だ。

米シカゴIMMの投機的な円ポジションは、11月14時点でネットー13万0249枚の円ショートになっている（国際通貨先物市場、非商業部門）。前週の-10万4040枚を含めて3週連続で売り持ちが増加し、2017年11月以来の記録的な高水準となってきた。

そこから前週後半には米国市場での23日の感謝祭休場や、その前後からの市場参加者による年末休暇シーズン入りなどが意識され、ポジション調整的な円の買い戻しと外貨の売り戻しが優勢になっている。今週以降は円ショートの整理持続による円高の余地と、整理一服による円高の歯止めが注目されやすい。

ドル/円は前週からドルが急反落となり、今週で2週目となる。最近のドル急反落ケースでは、7月7日週以降が2週目、3月10日週以降が3週目、昨年では7月22日週以降が3週目、5月13日週以降が3週目にドルが安値をつけたあと、底入れから再上昇へと移行していた。

一方で昨年10月21日週のドル急反落の場合、日本の当局による介入や米FRBの利上げ終盤思惑などが材料になったが、ドルの底入れは同週を含めて14週目となる今年1月20日週まで長期化している。その点で目先は今週や来週の「2-3週目」でドル安の勢いが弱まったり、ドルが反発となれば、ドルの上値は重くなるものの、ドルの高値安定化へと回帰。反対に今週から来週以降にかけて一段とドル安の勢いが強まったり、ドル戻り売り圧力の増加が明確になってくると、当座のドル安トレンド入りが目目されてくる。

今週の為替相場場で注目されるのは、米FRBによる金融政策の行方だ。前週は米国の物価を始めとした経済指標で下振れが目立ち、今年7月が最後となる形でのFRBの利上げ休止観測が高まった。米国債金利は低下となり、全般的にドル安が後押しされている。

今週のマテリアルでいえば、21日にFRBによるFOMCの議事録が公表される（10月31日-11月1日開催分）。さらに米国の経済指標やFRB幹部の発言なども注目されそう。こうした材料により、改めて利上げ休止観測が高まったり、来年5-6月に

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパン
エコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送
は法的に罰せられますのでご注意ください。



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル
TEL (03) 5962-3910 FAX (03) 5962-3913
E-Mail info@j-pulse.co.jp URL http://www.j-pulse.co.jp
発行責任者：上坂 郁 編集長：原田 祥二

予想されている利下げの時期前倒し、来年の利下げ幅の合計増加といった思惑が高まると、ドル/円を含めて全般的なドル安が後押しされやすい。

一方で最近の米指標の悪化は、自動車工場の大規模ストライキや7-8月以降の金利急上昇などが影響している。先行きストの影響が剥落したり、11月以降の米長期金利の低下が続くと、米国の指標が持ち直していく可能性も消えていない。

さらにFRBとしても、現状から過度に利上げ終了や来年の利下げ期待を高めてしまうと、「インフレ再上昇」のリスクをはらむ。その意味で今後はFRB幹部による牽制発言を含めて、来年の利下げ時期の後ズレや、利下げ幅合計の減少といった観測が高まる可能性は無視できない。その場合、勢いは鈍化してくるものの、米長期債金利とドルが再上昇へと向かうことになる。その他の注目ポイントは以下の通り。

＜週足、ドル/円は4週平均の下抜け定着焦点＞

為替相場の短中期トレンド判断で参考になるのが週足テクニカルだ。ドル/円は前週からドルが急反落となっているが、11月20日アジア市場時点の数値によると、「4週移動平均線を中央値としたボリンジャーバンド」では、4週線149.91円前後が焦点になっている。

4週平均の下抜けが定着してくると、ドル戻り売り地合いと上値切り上がり基調が明確化。4週平均方向が上値メドとなり、週間ベースでのドル下値メドとしては、バンド下限147.96円の方角やその下の方向が視界に入る。

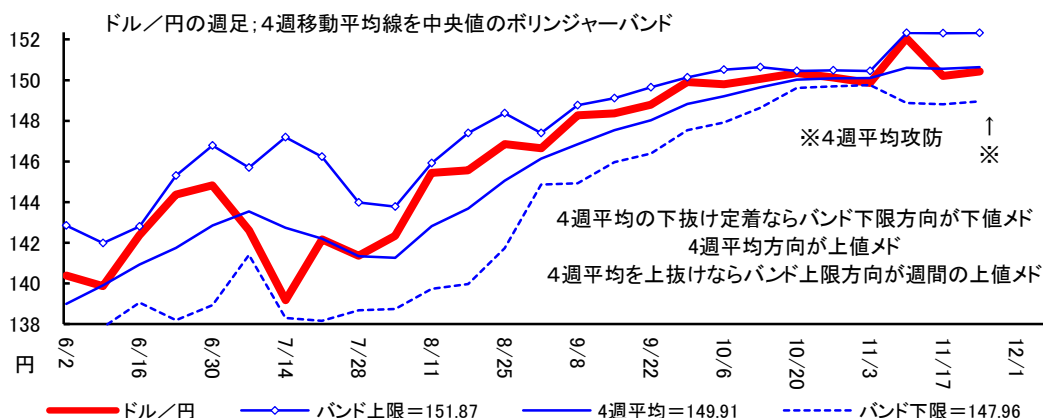
反対に4週平均を上抜け回復できると、ドル安の圧力が一服。週間ベースでの上値メドとしてはバンド上限151.87円の方角や、その上の方向などが意識されていく。

クロス円取引は11月入り前後から外貨が再上昇となってきたが、前週後半からは外貨が反落となっている。今週以降は外貨が再下落に移行していくか。あるいは外貨が下げ止まりから下値固めを経て、再上昇に向かうかの見極めとなる。いずれのクロス円取引についても、「5週や6週の移動平均線などを上抜け維持できるか否か」が目先の方向性を左右していく。

＜ドル/円の週間変動幅、前週末終値比の直近傾向＞

為替相場の週間ベースの高値や安値のメドで参考になるのが、前週末終値比の変動幅の直近傾向だ（ワールドレート、週初オセアニア寄付値から週末NY終値まで）。ドル/円は前週11月17日週の週間ドル高値が151.91円前後であり、その前の11月10日週・週末値である151.56円前後からは+0.35円幅のドル上昇幅となっていた。

それに対して今週の場合、参考の起点となるのが前週末11月17日の週末値149.70円前後だ。最近の「前週末終値から週間ドル高値」の値幅傾向と、その値幅に基づく今週ドル高値の参考メドは、直近最少の+0.35円幅で150.05円、9週平均+1.04円幅で150.74円、52週平均+1.62円幅で151.32円などとなっている。



る。

同様の計算による今週ドル安値の参考メドは、9週平均-0.92円幅で148.78円、52週平均-1.46円幅で148.24円、直近最大の-2.36円幅で147.34円となっている。

クロス円取引では同様の値幅が直近実績として、ユーロ/円の上昇幅が10月27日週以降の4週間では、+1.23円幅、+2.41円幅、+1.53円幅、+2.44円幅となっている。下落幅は-0.69円幅、-0.65円幅、-0.22円幅、-0.23円幅という状況だ。

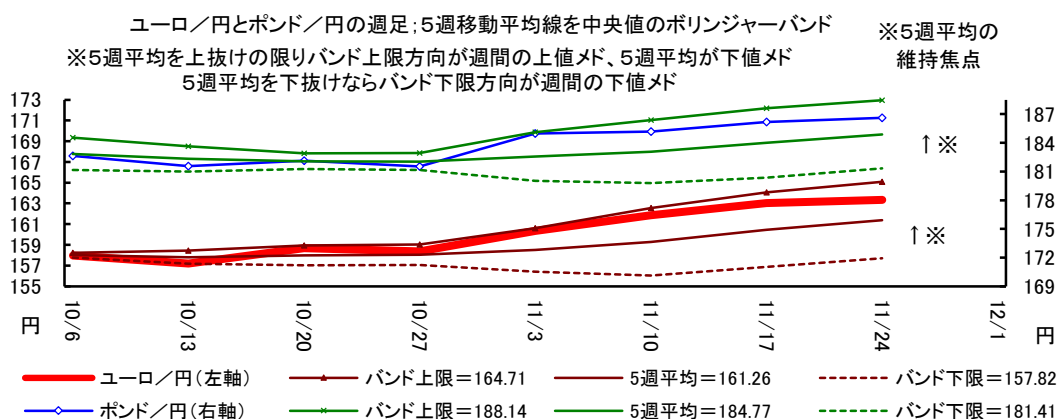
相対的に安定化しているスイス・フラン/円は、直近4週の上昇幅が+0.28円幅、+1.53円幅、+1.85円幅、+2.58円幅となっている。下落幅は-2.30円幅、-0.70円幅、-0.27円幅、-0.37円幅となっていた。

<原油相場の動向>

WTI原油先物は10月20日以降、反落となっている。世界各国での利上げ累積効果などによる景気悪化懸念のほか、中東の地政学リスクの拡大抑制などが原油安の材料となっている。その中で11月26日には石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟国で構成する「OPECプラス」が閣僚級会合するが、前週末からは「原油の追加減産を検討」といった報道が見られ始めた。

実際に減産決定や先行きの減産示唆があると、原油相場は短期的に反発。資源国通貨（豪ドル、NZドル、カナダ・ドル、南アフリカ・ランド、メキシコ・ペソなど）などにプラスとなりやすい。原油反発は産油国である米国のドルにプラスとなり、資源を輸入に頼る日本の円や欧州のユーロにはマイナスとなる。

反対に減産の見送りや減産規模が限定的になると、原油は再下落に移行。資源国通貨安やドル安、円高が後押しされる可能性も無視できない。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。